学びの多様化学校（中学校）へのご意見

令和8年11月13日更新

項目	ご意見の概要
学習・学習支援に関すること	学校に合わせるのではなく、こどもの特性や状況に合わせて学び方を選べる環境にしてほしい
	学習の遅れを取り戻すだけでなく、その子のペースに応じた学び直しができる仕組みが必要である
	学力の高いこどもも能力を十分に発揮できる教育環境を整えていただきたい
	オンラインやICTも活用しながら、自宅からでも継続して学べる環境を望む
	高校進学や将来の就労を見据えた学習・進路支援を充実させるべきである
	興味や得意なことを深く掘り下げ、「学ぶ楽しさ」を実感できる学習を大切にしてほしい
	デジタルだけに偏らず、紙に書く学習など自分に合った方法を選択できるようにしてほしい
	テストの点数だけでなく、挑戦した過程や成長を評価してほしい
体験活動・社会との関わりに関すること	地域や社会との関わりを通して、自分の居場所や役割を感じられる機会がほしい
	さまざまな職業や生き方に触れ、自分の将来を考えるきっかけをつくってほしい
	こども自身の「やりたい」を応援し、挑戦できる活動を増やしていただきたい
	学校生活や体験活動を通して、実生活や社会につながる学びを充実させたい
	多様な価値観や個性を認め合える経験が、子どもたちの生きる力につながると思う
	友達づくりを無理に求めるのではなく、自分のペースで人と関われる環境が望ましい
	教員だけでなく、多様な経験を持つ大人や専門家と出会える場にしてほしい
安心して学べる環境に関すること	学校の雰囲気に萎縮し、恐怖や不安を抱えるこどももいるため、学校らしさにとらわれない安心できる環境を期待する
	こどもが「ここにいていい」と思える居場所づくりを最優先に考えてほしい
	傷ついた自己肯定感や自信を回復できる関わりを大切にしていただきたい
	こどもの特性や背景を理解し、否定せず寄り添える教職員を配置してほしい
	一人で落ち着いて過ごせる場所と、人とつながれる場所の両方が必要である
	大人数ではなく、一人ひとりに目が届く少人数の環境が必要である
	登校時間や過ごし方を柔軟に選べることが、通い続ける安心感につながる
	学校に行くことが難しい時期でも、自宅で学びや支援を受けられる体制を整えてほしい
その他	送迎負担やアクセス格差があるため、通いやすい場所への設置を望む
	こどもだけでなく、悩みを抱える保護者への支援や相談体制も重要である
	学びの多様化学校だけでなく、既存の学校の支援体制や教員対応も改善してほしい
	民間の実践や専門性を生かした官民連携による学校運営を期待する
	こどもの時間は限られているため、学びの多様化学校を早期に整備してほしい
	不登校になる原因にも目を向け、いじめや不適切な対応を防ぐ取組を進めてほしい
	不登校に対する偏見を減らし、誰もが理解し合える社会になってほしい
	いつでも通える・帰れるなど、こどもの状況に応じて利用できる柔軟な仕組みがほしい
	不登校になる前から利用や相談ができる予防的な支援を充実してほしい